

【別紙様式 I】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立東名中 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 田所俊二

学校教育目標		学校経営の方針		
自己を確立し より良い社会をつくろうとする生徒の育成		1)確かな学力の向上 2)自他を尊重し、支え合い、認め合う生徒集団の育成 3)開かれた学校、信頼される学校づくり 4)教職員の協働体制の充実、組織的な教育活動の展開		
今年度の重点目標				
●授業規律の確立ときめ細かな指導の実践 ●生きて働く知識・技能の習得、未知の状況に対応できる「資質・能力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養を根幹に据えた教育活動の推進 ●生徒が主体的に学ぶ授業の工夫 ●家庭学習の定着や学習支援による基礎・基本の修得 ●小学校とのより一層の連携と9年間を見通した一貫教育の推進 ●「持続可能な開発目標(SDGs)」を意識した教育活動の推進 ●生徒理解に基づくきめ細やかで組織的な指導体制の構築●基本的生活習慣の確立と全教育活動を通した人権教育・道徳教育の推進●生徒の自治活動の推進と生徒会名誉基調の継承 ●異年齢集団による望ましい縦割り活動を通したリーダーの育成 ●個にあった指導とインクルーシブ教育の推進 ●生徒一人ひとりが所属感を感じられる学級づくり ●学校運営協議会を核にした開かれた学校の推進と、教育活動に対する地域力の活用 ●保護者との教育目標の共有と協働を通した信頼関係の確立 ●公民館・支援団体との連携及び地域行事への積極的な参加 ●学校だより・ホームページによる、学校教育活動の積極的な発信 ●地域清掃などを通したボランティア活動の推進 ● 防災・減災や安全・安心な学校づくりのための環境の創出				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
分かりやすい授業づくりに努め、基礎学力の向上を図る	1	・授業規律の確立 ・数学や英語の授業における少人数指導やT.T指導の実施 ・昼休みの学習支援	生徒は落ち着いて授業に臨めており、約8割の生徒が授業が分かりやすいと肯定的な回答をしている。全国学力・学習状況調査は、全国平均と比べて高い結果が続いている。しかし、保護者の3割は子どもが意欲的に学習に臨めていないと感じており、生徒が分かる授業、進んで取り組める授業づくりをしていきたい。	今後も少人数指導による個々への対応、昼休みの補習等を継続していきたい。また、授業規律を確立し、家庭学習へとつながる授業の工夫によって、基礎・基本を定着させていく。
家庭学習習慣の確立を図る	1	・毎週の課題の徹底 ・単元テスト、小テストの実施 ・定期テストへの計画的な取組 ・「学習の手引き」の作成	毎週の課題や単元テスト、定期テスト前の計画的な学習などは定着してきている。保護者は学校の取組に対して、7割が肯定的な回答をしている。しかし、保護者が意欲的に学習に臨んでいると捉えられるような取組はまだ十分ではない。今後も生徒への働きかけを継続し、家庭学習の習慣化を促していきたい。	「学習の手引き」の活用を積極的に行い、家庭学習につながる授業の工夫を図る。次年度も毎週各教科担当が生徒に家庭学習の課題を与える形で進めていく。クロームブックの持ち帰りによる課題設定も考えたい。また、小学校との連携を図り、三者面談などを通して家庭との協働も進めていく。
自他ともに尊重できる生徒を育成する	2	・道徳や点字などの福祉体験授業 ・生徒会による人権週間の取組 ・いじめアンケートの実施 ・心のつぶやきアンケート(月1回)	年度初めに各クラスでいじめ防止のスローガンをつくり、年度途中でその取組を評価する機会を持った。また、人権に関わる様々な取組を計画的に行っているため、生徒の人権意識が高まっていると考えられる。小さなトラブルはあるものの、自分や他人を大切にしていると感じている生徒がほとんどである。	毎月の心のつぶやきアンケートは継続して行い、いつでも相談できる体制は維持していく。また、人権に関わる取組を計画的に行うとともに、日常の活動の中で人権意識を高められるよう指導していく。
保護者・地域の願いに応えられるような教育活動の工夫・改善に努める	3	・学校ホームページの更新 ・学校運営協議会等の関係団体との連絡会 ・PTA活動	学校ホームページについては、今年度も多くの閲覧があり、学校だより等の発行もあわせて学校の様子を分かりやすく伝えていることに対して保護者から高い評価を得ていた。学校運営協議会では、十分な討議をすることができ、次年度の教育活動につなげることができた。	学校運営協議会の活性化を図れるよう努め、地域人材の活用や、地域に開かれた教育課程の編成を進めていきたい。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見
自己評価や保護者・生徒アンケートの分析結果から、教育活動や課題について概ね妥当であるとの評価を受けた。毎週の課題で計画的な家庭学習の充実や人権週間など生徒の主体的な取組をさらに進め、学校ホームページの更新を引き続き行い地域や保護者に発信していけるよう助言をいただいた。
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針
今年度は、かなりコロナ禍前の教育課程に戻す学校生活となり保護者・地域の方々の様々な支援を受けながら、生徒は落ち着いて学校生活を送ることができている。小規模校ならではの縦割り活動も順調に行い、上級生が下級生をリードする姿が見られた。生徒の資質・能力を伸ばすためのICTの活用や指導と評価の研究も進めることができた。来年度も、生徒一人ひとりの良さを認め、資質・能力をのばせるよう、教育活動の充実を図っていきたい。また、生徒指導及び教育相談の体制の構築を図り、個々の生徒に対応した教育を進めていきたい。